

# りんごのRIN東

発行日 2007.12  
発行所 下川あけ  
田中なつみ  
山瀬ちえ

[第 1 号]

兵庫県の尼崎市養護学校へりんごを送りました♡

Q, どうしてりんごを送るようになったかというので・・・??

A, 昭和33年の初秋、傍陽分校の六川憲七郎孝女諭は鳥中帽子岳に登山中、雑木林の中で赤い風船と手紙を見つけました。その手紙には、「私は兵庫県尼崎市立養護学校の生徒です。今日は、尼崎養護学校の同校記念運動会でこの手紙を風船につけて飛ばしました。ひろった人はお手紙を下さい」と書いてあった。六川孝女諭は早速、鳥中帽子岳の糸工葉を一枚添えて、木同本くんひろった手紙を送った。400kmもの遠い長野県からの返事と喜んだ木同本くんは、それ以来おかり六川孝女諭を仲良しになり、文通が交わされ、11月にはりんごの上箱を送ることになった。この話を聞いた傍陽分校の生徒会はこぞって仲良しになろうと全校生にりんごを送ることと決め、農業科の男子生徒は学校農場で生産したりんごをXmasプレゼントとして送り、家庭科の女子生徒は全員が自身共に障害をもつ養護学校生徒・児童に3枚程度の手紙を書いて12月中旬に発送した。バガラのプレゼントに小学校1年から中学三年までの児童・生徒135名の喜びの返事は学校宛にきたが、養護学校とはあまり知られていない昭和33年度は手紙不自由な子供が書いた手紙は分校の生徒に大きな感懐を与えた。両校の親密関係は兄弟のようになった。昭和39年度に傍陽分校は中心校へ統合し、廃止と決定した。けれど……

※昭和39年よりりんごの定期便は系統カリを思っていた上田東高等学校傍陽分校に移すため先生が生徒会役員に話した所、バカりんごの定期便を系統やることになり、以来、優しいプレゼントは系統いています。